

No10

下野市立石橋中学校



校長室だより

スローガン ～生徒も先生も、自ら輝く学校～

目指す学校像

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」

令和5年11月24日(金)
発行者 田熊利光



橋中ホームページQRコード

石橋ロータリークラブ優良生徒表彰式

11月7日(火)に石橋商工会議所(アイリスホール)にて、優良生徒表彰式が行われました。下野市教育委員会、石崎雅也教育長・上三川町教育委員会、氷室清教育長ご臨席の下、下野市と上三川町の各中学校から選ばれた代表生徒が、石橋ロータリークラブ会長様から表彰状を手渡されました。石橋中学校からは、生徒会長の齋藤凧が賞状を授与されました。



表彰状授与の様子



お礼のスピーチ

優良生徒表彰 お礼のスピーチ

本日はこのような賞をいただき大変嬉しく思います。私たち石橋中学校では、学校目標である「凡事徹底」の意識をもち、何事にも全力で取り組んで学校生活を過ごしています。その全力の輪が私たちの学校生活で全体にまで広がっていると感じられるのが行事です。私たちはこれまで合唱コンクールや運動会・輝石祭という学校祭など、どの行事も涙を流せる最高の行事に仕上げることができました。その感動の裏には、自分たちの時間を削ってまでして全てを掛けてきた運動会であれば、応援団であったり、輝石祭であれば、実行委員であったり、彼等のたくさんの努力があったからだと僕は思います。また、それに応えるように、一人一人が本気になることで、石橋中学校の行事を益々素敵なものに仕上げることができました。

私は1年生の頃から生徒会活動をしており、たくさん行事に携わってきました。その中でも、私が何も知らなかった1年生の頃に見た先輩方の姿が、今でも目標となっています。先輩方は生徒全員のことを第一に考えて、行事の活動をしていました。その姿を見てこんな先輩について行きたいな、こんな先輩のようになりたいなと、1年生の頃に思ったのがずっと心に残っています。そして、3年生になった今、次は私たちがその姿を見せる番です。私が1年生の時の担任の先生に「背中で語れる先輩になれ」という言葉を教えていただきました。口先だけの言葉ではなく、行動で姿を示す。それこそが3年生のお手本であるということ、その時に教えていただいたことは、今でも自分が3年生として過ごす上での、一番大事な柱となっています。

残すところ半年を切った学校生活、一日一日を大切にかみしめながら、この学校で出会った学年の仲間、クラスの仲間、また他の行事で関わった下級生との出会いに感謝しながら、これからの学校生活も頑張っていきたいと思っております。

石橋中学校 齋藤 凧

地域貢献 グリムの森イルミネーション 11/26(点灯式)~1/3まで

毎年多くの方が県内外から訪れる「グリムの森イルミネーション」ですが、本校の科学部と美術部が、装飾や設置のボランティアとして大活躍しています。今やこのイルミネーションには欠かせない存在となっており、地域に大きく貢献しています。今回は科学部と美術部の部長さんの意気込みを紹介したいと思います。

毎年片付けを手伝ってくれている部もありますが、その部については、その時期にご紹介したいと思います。

11月26日から第13回グリムの森イルミネーションが開催されます。今年も科学部は飾り付けのボランティアに参加しています。水辺にお花のライトを飾ったり、歩道に沿って光るロープライトを設置したりなどのお手伝いをしています。来てよかったと思えるような素敵な空間になるよう、みんなで力を合わせて作業を進めています。たくさんのボランティアの人達で作り上げたイルミネーションを見て感動してくれたらとても嬉しいです。

2年5組 吉澤 慧朔

私はイルミネーションボランティアに参加してやり甲斐を感じました。活動ではパネルの塗装やLEDの設置などをやらせていただいています。ペンキが付いてしまったり、重い荷物を持ったりして、大変だと思ったりしますが、地域ボランティアの方々に優しく接していただいたり、一緒に食事をしたりして楽しく作業を進めています。今年も昨年同様にたくさんの方に見ていただき喜んでもらえたらいいなと思います。

2年2組 山本 夏南

地域の方からの嬉しい電話

先日、学校に一本の電話がありました。いつも石中の前の道路を歩いて通勤している方からでした。その方によると、「今朝、孝謙天皇神社の信号付近で、救急車のサイレンが聞こえたので車を止めました。すると、中学生3人が目の前で、自転車を止めて救急車が走り過ぎるまで待っていました。車を運転している大人なら、普通に止まりますが、中学生で、自転車ではなかなかできない行動だと思い感動してしまいました。どうしてもこの気持ちをお伝えしたくてお電話しました。素晴らしい生徒さんですね。褒めてあげてください。」という内容でした。そこで、先生方に心当たりがあるか生徒の皆さんに聞いてもらいました。すると、1年5組の谷田貝颯輝さん(野球部)・馬場隆弘さん(卓球部)・北島友晴さん(野球部)と分かりました。校長室に三人を呼んで、良い行動を称えました。そして、3人に「なぜ、今回このような行動がとれたのですか」と質問しました。その回答を紹介したいと思います。

親の車に乗っている時に、救急車のサイレンが聞こえると、いつも車を止めて救急車に道を譲る姿を見てきたから、自分もそうしようと思って行動することができました。

1年5組 谷田貝 颯輝

自分が登校時間に余裕をもっていったことが、心の余裕に繋がったこと。救急車は命に関わるかもしれないと思ったので止まることができました。

1年5組 馬場 隆弘

サイレンが聞こえたので、止まった方がいいなと思いました。自分も親の車に乗っている時に親が救急車に道を譲っていたので、自分も自転車を止めて待つことができました。

1年5組 北島 友晴

この他にも、嬉しい話があります。板倉先生が孝謙天皇神社の交差点で下校指導をしていたときに、地域の方から「石中生が気持ちの良い挨拶をしてくれます。最近、挨拶してくれる生徒さんが増えていて嬉しいです。」と、声を掛けていただいたそうです。

生徒のみなさん、今後とも、**凡事徹底＝「誰にでもできる当たり前のことを、誰にもまねができないくらい徹底して磨きを掛ける」**を意識して行動しましょう。石中生の素晴らしさを称える声が、ますます地域に広がっていくだろうと思います。

<命に関わること=交通ルール・マナーの向上を>

水曜日に交通の係から放送がありましたが、歩行者への気遣いもお願いします。皆さんが並進していたり、スピードを出して走っていると、歩行者は怖い思いをします。注意してください。

道路を横断する際や見通しの悪い所での「一時停止・左右確認」は命に関わります。必ずやってください。